

A Study of the Opie Version of Nursery Phyme “Mary, Mary quite contrary” : Focusing on the Last Line

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 夏目, 康子 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/7471

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



英国伝承童謡 “Mary, Mary, quite contrary” の Opie 版にいたる過程の検証

—— 最終行をめぐる ——

夏 目 康 子

【キーワード】 英国伝承童謡, マザーグース, オービー, 「つむじ曲がりのメアリ」, 『ナンシー・コック』

1. “Mary, Mary, quite contrary” の唄

18 世紀のマザーグース集成本は, Mother Goose や Nursery Rhymes という語よりも, Tommy Thumb や Nancy Cock などの人名をタイトルに入れたものが目立つ。だが, こういった本は *Tommy Thumb's Pretty Song Book* と *Tommy Thumb's Song Book* という具合にタイトルが似通っているため, 研究者にもしばしば混同されがちである。Opie 夫妻も, *Nancy Cock's Pretty Song Book* と *Nancy Cock's Song Book* の 2 冊を, *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes* (1951, 1997; 以下, *ODNR* と記す) の “Mary, Mary, quite contrary” の解説のなかで混同している⁽¹⁾。

気難しいメアリが奇妙なもので庭づくりをするという “Mary, Mary, quite contrary” の唄は, 18 世紀の文献初出の時から現代の絵本にいたるまで, 収録されることが多い人気の唄である。この唄については, 歴史上の人物との関連や, 「閉ざされた庭」としての聖母マリアとの関連などの観点から拙著『不思議の国のマザーグース』(2003) の第一章 2 節「メアリ メアリ つむじ曲がり——つむじ曲がりの少女の庭作り」で筆者はすでに分析を試みている。聖書の雅歌「君は閉ざされた庭, 封ぜられた泉」という言葉に端を発し, 中世から繰り返し描かれた「閉ざされた庭」のなかにいる処女マリアは, 外部の汚れから完璧に閉ざされることで原罪を逃れ, 大いなる神へと開かれているとして, Mary と庭とのつながりはかなり古くまで遡ることができることが安西信一によって指摘されていることを拙論では示した。さらに Frances Hodgson Burnett (1849-1924) の *The Secret Garden* (1911) とこの唄との関連から考察を加えている (34-36)⁽²⁾。

本稿では, この唄が 18 世紀の *Tommy Thumb's Pretty Song Book* Voll. II から 20 世紀の Opie 夫妻による *ODNR* にいたる二世紀以上にわたる変遷の過程を追い, なぜ “Mary, Mary, quite contrary” の唄の Opie 版がこの形になったのかを検証し, さまざまな版が存在することから見てくるマザーグースの特質について考察する。まず, 現代では標準版と見なされている Opie 版と, 18 世紀の初出文献の版を比較しよう。

2. Opie 版の “Mary, Mary, quite contrary”

“Mary, Mary, quite contrary” の唄は, Opie の *ODNR* では次のようになる。

Mary, Mary, quite contrary,
How does your garden grow?
With silver bells and cockle shells,
And pretty maids all in a row. (Opie 355)

つむじ曲がりのメアリが、庭づくりをしている。しかし、その庭にあるものは銀の鈴や、トリガイの貝殻という園芸ではあまり見慣れないものであり、おまけに、最後の行では、可愛い乙女たちが一列に並んでいるという。花や木などの植物ではなく、庭に存在するものとしては異例なものばかりだが、一体どういう庭づくりなのだろうか。

Opie は、ODNR で次のように解説する(355)。Mary が登場することから、この唄に宗教的な背景を読むこみ、女子修道院の風景として、bells はミサで使われる祭鈴、cockle shells は巡礼の印、pretty maids は下位の修道女と読むことは可能ではあるものの、この唄がそうであるとは限らない。また、史実と照らし合わせ、Mary はスコットランド女王メアリ、cockle shells はフランス皇太子から贈られた女王のドレスの飾り、the pretty maids はメアリ女王の4人の侍女“Four Marys” (Opie は名前を挙げていないが、Baring-Gould によると、Mary Beaton, Mary Seaton, Mary Fleming, Mary Livingston のこと)を表すという説も紹介するが、この唄は18世紀以前には確認されていないので、この説には疑義を呈している。

また、Opie は、1780年版の選集の唄の最終行の“Cuckolds all a row”について、1637年6月に登録されたバラッドのタイトルであり、Playford の *The Dancing Master* (1651) に“Cuckolds all a row”という歌があることを紹介し、曲に合わせてこの歌が歌われただろうと述べている。この1780年版の選集のタイトルはODNRの本文では示されていないが、下の注釈部分で *Nancy Cock's Pretty Song Book* として紹介し、‘Mrs. Mary, Quite contrary, How does your garden grow? With silver bells, And cockle shells: Sing cuckolds all on a row’としている。筆者(夏目)は、*Nancy Cock's Pretty Song Book* の複写を所有しているが、それによるとこの唄は“Mistress Mary / Quite contrary, / How does your garden grow / With silver bells, / And cockle shells, / Sing Cock-a-doodle-do”である。一方、*Nancy Cock's Song Book* (1744) では Mrs. Mary で始まり、Sing Cuckolds all a row と終わる。残念ながら、Opie は、タイトルが似ているためにこの2冊を混同しているようである。この2つの選集については、後述する。

また、この唄の silver bells と cockle shells については、“When cockle shells turn silver bells”「トリガイが銀の鈴に変わるとき」という言い回しがあり、“never”の意味をもつ folk phrase であることも Opie は付け加えている。この Opie の解説により、“Mary, Mary quite contrary”の唄に登場する silver bells と cockle shells の取り合わせにも納得がいく。

確かに、ほぼ同時代の *Hook's Original Christmas Box* Vol. III (1798) に、“When Cockle Shells Turn Silver Bells”という歌が楽譜付きで収録されている⁽³⁾。これについても後述するが、19世紀にマザーグースの選集 *Nursery Rhymes of England* を何度も編纂し改訂した James Orchard Halliwell も、第2版(1843)の注釈で、スコットランドの歌としてこの歌を紹介している。当時、silver bells と cockle shells の組み合わせはそれほど突飛なものではなかったのだ。後の版の最終行に登場する Mussels (ムラサキガイ、イガイ)に似た Muscles も“When Cockle Shells Turn Silver Bells”という歌の歌詞のなかに登場することを付け加えておく(注3を参照)。

この唄の行末の押韻に注目すると、a-b-c-b だが、1行目と3行目では各行内で押韻しているので本来は1行目と3行目は音韻のため2つに分かれているはずのものを、Opie 版では1行にまとめ

てしまったとみることができる。初出文献の版から現代まで見比べると、最後の行にはさまざまな言い回しがあることに気づく。そのいくつもの選択肢の中で、なぜ Opie 版では And pretty maids all in a row の版を再録することになったのかを探るために、18 世紀の初出文献から、Opie が ODNR 初版を出す 1951 年まで、特に 20 世紀初頭までの変遷をたどってみよう。1951 年以降の集成本や絵本はほとんどが ODNR を典拠としているので、20 世紀後半からはあまり異版が見られないからである。

3. “Mary, Mary, quite contrary” の唄のさまざまな終わり方

1) 18 世紀の集成本

この唄の初出文献である *Tommy Thumb's Pretty Song Book* Voll, II (1744) に初めて登場した唄は次のようになる。

Mistress Mary:
Quite contrary,
How does your
Garden grow,
With Silver Bells,
And Cockle Shells,
And so my Garden grows.⁽⁴⁾ (下線筆者；図版 1)

冒頭の Mistress は「女主人、女教師」の他に、「情婦、めかけ」「～夫人」の意味を持つ。ここでは、押韻のために 7 行詩となっている。行の最後の韻は、a-a-b-c-d-d-c となる。この詩は、前半はメアリに対する問いかけ、後半の 3 行はそれに対するメアリの返答という形になっている。つまり最後の行で my Garden と言っているのも、メアリが自分の庭について言及しているのは明らかだが、Opie 版の pretty maids はまだ登場していない。この最終行は、「そのように庭は育っているのだ」という念押しにとどまり、具体的な印象は残らない。

一方、同年に出版され、タイトルでもきょうだい編のような *Nancy Cock's Song Book* (1744) では次のようになる。

Mrs. Mary,
Quite contrary,
How does your garden grow?
With Silver Bells,
And Cockle Shells,
Sing Cuckolds all a-row.⁽⁵⁾ (図版 2)



図版 1 *Tommy Thumb's Pretty Song Book* Voll, II. 1744.



図版 2 *Nancy Cock's Song Book*. 1744.

Mrs. Mary は Mistress Mary の略語である。「女主人の Mary さん」とも「情婦の Mary」とも解釈できる。最終行は Sing で始まるので Cuckolds all a-row を Sing の目的語ととり、With Silver Bells, / And Cockle Shells / Sing Cuckolds all a-row は「Silver Bells と一緒に、Cockle Shells も Cuckolds all a-row（一列に並んだ寝取られ男）を歌う」と解釈することができる。あるいは、「Silver Bells とともに Cockle Shells は Cuckolds all a-row を歌え」と解釈することもできる。いずれの解釈にせよ、最後の行が唐突な印象を与えるが、ここで冒頭の Mistress Mary が「情婦の Mary」であり、締めくくりが「並んだ寝取られ男たち」だとすると、それなりに一貫性があるのかもしれない。この最後の Cuckolds all a-row については先述したように、Opie も *ODNR* でこのタイトルを持つ歌が実在したことを記しているので、歌について詳しく見てみよう。

A Collection of National English Airs: Ancient Song, Ballad, & Dance Tunes (1840) によると、“Cuckolds a row” は *Dancing Master*, 1650-51 からとられたもので、Pepys の *Memoirs* には、Charles II 世の治世、宮廷の舞踏会で王の命で古いイングランドの曲 *Cuckold's all a row* が最初の曲として選ばれたとある (91-92)⁽⁶⁾。また、Gordon Williams の *A Dictionary of Sexual Language and Imagery in Shakespearean and Stuart Literature* (1994) によると、このタイトルの歌は、1685-88 年に *Pepys Ballads* V.i.10 に登場している。以上から、最終行の “Cuckolds all a row” を歌のタイトルととることに問題はない。

日本における翻訳では、この行を「寝取られ男たちが一列になって歌う」と解釈されることがあったが、安藤幸江は、最終行について、Cuckolds all a row は歌のタイトルであり、銀の鈴とトリガイの貝殻が “Cuckolds all a row” の歌を歌うという解釈を示している (13)。また、当時流行っていたバラッド “Cuckolds all a-row” が再録された楽譜 *Wit and Mirth: or Pills to Purge Melancholy* (1717) という楽譜についても紹介している (14-18)。

しかし、陽気な王様とも呼ばれた享楽的な Charles II 世の名が登場することからもわかるように、これは大人向けの歌であることは確かである。この行は “Cuckolds all a row” の歌を歌え」にせよ “Cuckolds all a row” を歌う」にせよ、この cuckolds (寝取られ男) の版は子どもが読むものとしてふさわしくないという判断が働いたのだろう。18 世紀の *Infant Institutes* (1797) には登場するが、それ以降の 19 世紀の選集ではあまり採用されていない。

一方、タイトルが紛らわしいが、*Nancy Cock's Pretty Song Book* (c.1780) では次のようになる。

Mistress Mary
Quite contrary,
How does your garden grow
With silver bells,
And cockle shells,
Sing Cock-a-doodle-do. (図版 3)

この版では、先述の 2 冊と、最後の 1 行が異なっている。Sing Cock-a-doodle-do. と終わるので、「コケコッコを歌え」、または、silver bells と cockle shells が「コケコッコを歌う」ということになる。「コケコッコ」が唐突だが、



図版 3 *Nancy Cock's Pretty Song Book*. c.1780.

実はこの選集 *Nancy Cock's Pretty Song Book* でこの唄の2つ前に収録されているのが “Cock a Doodle Do” というタイトルの, “Cock a Doodle Do, / My dame has lost her shoe, / The Cat has lost her Fiddle stick, / And knows not what to do.” という4行詩なので, それを受けているのだろう。cuckolds と同じ [k] の音で始まるとはいうものの, 押韻の点でも不揃いであり, 唄としてのまとまりには欠けるが, 唐突な「コケコッコ」の展開は音の点でも子ども読者には面白いかもしれない。

次に検討するのは, *Gammer Gurton's Garland* (1784, c.1799, 1810) の版である。

Mistress Mary,
Quite contrary,
How does your garden grow?
With cockle shells,
And silver bells,
And cowslips all arow.⁽⁷⁾ (下線筆者)

これまでの版と, cockle shells と silver bells の登場順序が異なり, また, 最後の行に cowslips (キバナノクリンザクラ) という植物が登場する。*Nancy Cock's Song Book* (1744) の最終行の Cuckolds や *Nancy Cock's Pretty Song Book* の Cock-a-doodle-do と冒頭の音 [k] は同じだが, 寝取られ男やコケコッコでは不適當なので, 同じ [k] の音で始まる花に替えたのだろう。花なので庭の構成要素としては真っ当なものだ。*Gammer Gurton's Garland* の1810年版では, ロングエスが普通の s に代わるが, 他の部分に変化は無い。

Tommy Thumb's Song Book (1788) では次のようになる。

MISTRESS Mary,
Quite contrary,
How does your Garden grow?
With Silver Bells,
And Cockle Shells,
Sing Cuckolds all a row. (図版4)

この版は *Nancy Cock's Song Book* と最終行が同じである。大人の女性一人と子どもたちが描かれた挿絵は, 唄の中身とあっていないが, 以前, 『不思議の国のマザーグース』で指摘した通り, この絵は John Newberry の *Goody Two Shoes* (1765) からの借用である。18世紀や19世紀にはしばしばこのように, 他のものから絵を借りてきて, 中身と合っていないということが起こるので注意が必要である。

次に挙げるのは, *Christmas Box* (1796) という楽譜本である。ここには “How Does My Lady's Garden Grow” というタイトルで次の唄が載っている。



図版4 *Tommy Thumb's Song Book*. 1788.

How does my Lady's garden grow,
 How does my Lady's garden grow,
 with Silver Bells and Cockle shells,
 and pretty Maids all in a row. (図版 5)

Mary, Mary, quite contrary という冒頭部分はないものの、最終行が初めて and pretty Maids

8 HOW DOES MY LADYS GARDEN GROW.
 DUO. Allegretto.

Vocce. 1.^{mo}
 Vocce. 2.^{do}
 Piano.
 Forte. or
 Harp.

How does my Lady's garden grow, How does my Ladys garden grow, with
 Silver Bells and Cockle shells, and pretty Maids all in a row, How does my Lady's garden grow,
 Silver Bells and Cockle shells, and pretty Maids all in a row, How does my Lady's garden grow,
 how does my Ladys garden grow, with Silver bells and Cockle shells, and pretty Maids all in a
 how does my Ladys garden grow, with Silver bells and Cockle shells, and pretty Maids all in a
 row, with Silver bells and cockle shells, and pretty Maids all in a row.
 row, with Silver bells and cockle shells, and pretty Maids all in a row.

図版 5 *Christmas Box. Set to Music by M. Hook. 1796.*

all in a row である版である。これを起源として、最終的に Opie 版へとつながり、現代にいたることになることから、楽譜であり、今までの選集とは異なるジャンルの本だが、貴重な文献である。

2) 19 世紀の集成本

ここまで見てきたように、18 世紀の選集では、この唄の終わり方はまちまちだった。19 世紀になり、*Songs for the Nursery* (1805) では、次のようになる。

Mary, Mary,
Quite Contrary,
How does your garden grow?
Silver bells,
And cockle shells,
And pretty maids all of a row.⁽⁸⁾ (下線筆者)

この版では、冒頭の Mary, Mary という呼びかけを復活させ、前出の *Christmas Box* の版の最終行の and pretty Maids all in a row を少し変形させたものを最終行にしている。“Cuckolds all a row” 「並んだ寝取られ男たち」と、“pretty maids all of a row” 「並んだ可愛い乙女たち」とでは、随分、絵柄も印象も違う。しかし、つむじ曲がりの Mary たるゆえんだろうか、その庭を飾るのは、依然 silver bells, cockle shells, pretty maids という脈絡のないものだ。Opie は “When cockle shells turn silver bells” という言い回しがあることを紹介し、先述したように、この 2 つをタイトルに冠した歌も 18 世紀末に実在したことが判明しているが、あえて、この、鈴、貝殻、人間の 3 つの共通点と言えば、すべて 2 語からなり、全部が [z] で終わるということくらいである。音節の数では、前出の cuckolds が 2 音節語、pretty maids が 3 音節語というふうに異なるが、語尾の発音 [z] は同じになる。

3) 2 つの系統

第 3 章の 1) で述べたように、*Gammer Gurton's Garland* (1784) では最終行が And cowslips all arow であった。cowslips (キバナノクリンザクラ) という花なので、コケコッコや寝取られ男よりは庭の構成要素としては真つ当なものだ。この版を踏襲する集成本は、*Walker's Nursery Rhymes* (1813) や *The Nursery Rhymes* (1835) や *Mother Goose's Melodies* (1847)、初期の Kate Greenaway による *Mother Goose* (1881) などであり、それぞれ、“And cowslips all in a row” または “And cowslips all of a row” と終わる。

一方、“And pretty maids all of (in) a row” で終わる主な集成本を時代順に並べると、*Christmas Box* (1796)、*Songs for the Nursery* (1805)、*Traditional Nursery Songs of England* (1843)、Charles H. Bennett の *Old Nurse's Book* (1858)、*Mother Goose's Nursery Rhymes: A Collection of Alphabets, Rhymes, Tales and Jingles* (1877)、*Favourite Rhymes for the Nursery* (1887)、アメリカの *Familiar Rhymes from Mother Goose* (1888)、Jessie Willcox Smith の *Mother Goose* (1895)、*National Rhymes of Nursery* (1895)、Andrew Lang の *The Nursery Rhyme Book* (1897)、Frank Kidson の *75 British Nursery Rhymes* (1904)、Henriette Willebeek Le Mair の *Our Old Nursery Rhymes* (1911)、Arthur Rackham の *Mother Goose* (1913)、Blanch Fisher Wright の *The Real Mother Goose* (1916) など、多数にのぼる。変形として、楽譜付きで “And fair maids all in a row”

と終わる *National Nursery Rhymes* (c.1870), pretty が無い “And maidens all a row” で終わるアメリカの *Mother Goose’s Melodies* (1833) や, *Mother Goose; Containing All the Melodies the Old Lady Ever More* (1851) がある。

他方, cowslips でも maids でも maidens でもない一群もある。 *Aunt Louisa’s Nursery Rhymes* (1892) や *Mother Goose’s Nursery Rhymes, Tales and Jingles* (1902) では, “And mussels all a row” 「一列に並んだムラサキガイ (イガイ)」と終わり, *Mother Goose Book of Nursery Rhymes* (1910) や *The Land of Nursery Rhyme* (1938) では, “And columbines all in a row” 「一列に並んだオダマキ」と終わる。このように, 貝殻や花や鈴が繰り返され, 最終行は 20 世紀半ばまで確定していなかった。

4) James Orchard Halliwell の複数の終わり方

Shakespeare 学者でもあった James Orchard Halliwell は, *Nursery Rhymes of England* の版を重ねるごとに, この唄の最終行が異なるものを採用している。一つに固定せず, いろいろなものを収録している。1842 年の *Nursery Rhymes of England* 初版には, And cowslips all in a row で終わる唄を載せ, 後注で “muscles” というものもあり, また, 1797 年の “cuckolds” という本も持っていると述べている。この 3 つからあえて, Halliwell は初版には cowslips を選択している。次の 1843 年版には “And muscles all a row” で終わる唄を載せ, “When cockle-shells turn silver bells, / And muscles grow on every tree; / When frost and snow shall warm us a’, / The shall my love prove true to me.” というスコットランドの歌との関連も指摘している。

次年 1844 年版でも “And muscles all a row” で終わる版を収録し, 注釈で “muscles” の代わりに “columbines”, “cowslips” があることを指摘している。1853 年の第 5 版を基にした 1886 年版では, スペリングが変わり, “And mussels all a row” を収録している。すなわち, Halliwell の編集方針で興味深いのは, 最終行を一つに固定せず, cowslips, muscles, cuckolds, columbines, mussels という異なるバージョンを認定し, 版ごとに変えていることだ。必ずしも一つに限定できないマザーグースの多様性を, 読者に示している。ただし, 不思議なことに, pretty maids は Halliwell の選択肢には入っていない。

5) “Mary, Mary, quite contrary” の最終行のまとめ

最終行についてまとめると, 1744 年の初出は And so my Garden grows という無難なものだったが, 他の 18 世紀の集成本に登場した cuckholds や Cock-a-doodle-do は不適切であるとか, 唐突すぎるがために姿を消した。19 世紀, 20 世紀初頭の集成では, その代わりに cuckholds と同じ音で始まり, 植物である cowslips (キバナノクリンザクラ) 版は残ったが, それとは別の系統として pretty maids の版が登場する。fair maids や maids だけのものもあったが, pretty maids がやがて主流となっていく。しかし, そのいずれとも異なる, mussels (ムラサキガイ, イガイ) (または, Halliwell の場合, muscles も含む) や columbines (オダマキ) などの少数の版も現れた。このように, 終わり方にはさまざまなものがあり, Halliwell などは自分の複数のマザーグース選集で, 複数のバージョンがあることを示している。すなわち, Opie 版が現れるまで, この唄の前半はほとんど変化がないが, 最終行にはいくつものバージョンが存在し, 編者が自由に選択したことになる。

4. “Mary, Mary, quite contrary” の挿絵

本章では、この唄の初期の集成本の挿絵と、19世紀以降の特徴的な挿絵を検討する。初出文献の *Tommy Thumb's Pretty Song Book* Voll, II (1744) の挿絵 (図版1) は奇妙である。Baring-Gould は Silver Bells について、白い花を咲かせる silver-bell と呼ばれる木があるが、それよりも、木に銀の鈴をぶら下げて風が吹くと鳴らすというかつての風習を指すのではないかと述べている (32)。 *Tommy Thumb's Pretty Song Book* Voll, II (1744) の挿絵には、確かに木の枝に鈴をぶら下げたものがある (図版1)。左右対称の整形庭園の木に鈴がぶら下がり、手前に貝殻が並べられているのは、With Silver Bells, /And Cockle Shells を表しており、絵としては妥当だが、真ん中に描かれているのは人間ではなく、猿のような動物である。これが Mary を表しているのかどうかはわからない。Mary の愛玩動物の可能性もある。遠近法を使って、奥行きのある庭を描いているが、Mary はどこにいるのだろうか。この唄のための挿絵ではあるが、Mary 不在で猿が中心であることに疑問が残る挿絵である。

次に、*Nancy Cock's Song Book* (1744) の挿絵は、Mary の前に並ぶ角の生えた4人の男性たちである。最終行の “Sing Cuckolds all a-row” に焦点を合わせた絵である。角が生えた男性というのは、もちろん「寝取られ男」である。子ども向けの本に、この詩句でこの挿絵のついたものを載せるのは18世紀らしいおおかさの表れなのか、それとも子どもだけでなく、子どもと一緒に読む大人も対象とした本だったのだろうか (図版2)。

Tommy Thumb's Song Book (1788) の挿絵は、大人の女性一人と子ども4人が描かれた絵である。先述したように、この絵は、John Newberry が出版した *Goody Two Shoes* に使われた絵であり、*Tommy Thumb's Song Book* が借用したものなので、唄の内容に合っていない (図版4)。18世紀や19世紀にはしばしばこのような絵の借用、使い回しが行われた。

Nancy Cock's Pretty Song Book (c. 1780) のこの唄の最終行は、“Sing Cock-a-Doodle-do” だが、挿絵はソファに座る二人の女性の絵である (図版3)。年配女性が若い女性を慰めているような場面だ。これも明らかな使い回しで、他の本からの借用だろう。

残念ながら、*Christmas Box* (1798) (図版5)、*Gammar Gurton's Garland* (1794)、*Songs for the Nursery* (1805)、*The Nursery Rhymes of England* (1842) には挿絵はない。

19世紀になると、最終行は “And pretty maids all in a row” の版が増えるので、少女が庭に並んでいる絵が多く描かれる。Charles H. Bennett の *Old Nurse's Book of Rhymes, Jingles and Ditties* (1858) (図版6) や Walter Crane の *The Baby's Opera* (1877) では花の中から少女が顔を出している。Kate Greenaway は2冊の本でこの唄の挿絵を描いているが、晩年の *The April Baby's Book of Tunes* (1900) (図版7) では、庭の中で少女たちが手を繋いでダンスをしている。Henriette Willbeek Le Mair の *Our Old Nursery Rhymes* (1911) (図版8) では、貝殻や鈴で飾り付けられた庭に小さな女の子の人形が並べられている。なかには、着物を着た日本人形らしきものもある。

以上のように、この “Mary, Mary, quite contrary” の唄は色々に解釈を膨らませることができる唄であり、特に、最終行の pretty maids をどう並べるのかという点に、画家は工夫をこらし、この場面を描くことが多い。



MARY, Mary, quite contrary,
How does your garden grow?
With silver bells and cockle-shells,
And pretty maids all of a row.

図版 6 Charles H. Bennett illus. *Old Nurse's Book of Rhymes, Jingles and Ditties*. 1858.



MARY, MARY, QUITE CONTRARY.

Mary, Mary, quite contrary,
How does your garden grow?
With silver bells and cockle shells,
And pretty maids all of a row.

図版 7 Kate Greenaway illus. *The April Baby's Book of Tunes*. 1900.



図版 8 Henriette Willebeek Le Mair illus. *Our Old Nursery Rhymes*. 1911.

5. “Mary, Mary, quite contrary” の唄のまとめ

“Mary, Mary, quite contrary” は、18 世紀の初出文献から現代の絵本まで、時代を経ても人気の唄だが、その変遷をたどると、冒頭は Mistress Mary (Mrs. Mary) か Mary, Mary のどちらかであり、あまり変化が無いのに対して、最終行にはさまざまなものがあった。押韻のために、行の最後の音は [ou] にするのが望ましいが、それさえ満たせば、Cuckolds, Cock-a-doodle-do, pretty maids, maidens, cowslips, mussels, muscles, columbines, lady bells など、寝取られ男、コケコッコ、可愛い乙女（女中）、貝殻、花、鐘という具合に、種類も系統もバラバラな語が登場した。

この中から、Opie は *ODNR* を編纂する際、*Gammer Gurton's Garland* から始まり、Halliwell や初期の Greenaway らが採用する植物の cowslips ではなく、*Christmas Box* から始まり、Jessie

Willcox Smith や Arthur Rackham ら多数が採用する pretty maids の版を選択した。多数の選集が支持していることに加え、Mary の庭にあるものとして、花だとありきたりだが、可愛い乙女たちであれば絵としても面白く、不可思議性、物語性が増すためもあるだろう。さらに、選集では all of a row が多かったが、それよりも語調の良い最初の *Christmas Box* (図版 5) の all in a row とした。詩句が完全に一致するのは、Henriette Willebeek Le Mair の *Our Old Nursery Rhymes* (1911) なので、Opie は ODNR に採録する際、この選集を参考にした可能性がある。1911 年の初版は楽譜 (図版 8) なので、歌うことを目的とした版である。音とリズムを重視するマザーグースは、音とリズムの点からも、時代を経て、より洗練されたものを選択していく。

このように見てきたうえで唄の意味を再検討すると、そもそも、つむじ曲がりの Mary の庭は、最初から植物よりも silver bells と cockles shells といった普通の庭にはあまりないもので構成されていたので、庭に pretty maids が並んでいようとそれほど違和感はない。第 4 章で見たように、挿絵を描く際に pretty maids をどう並べるのか、画家が工夫をこらすところでもある。唄が contrary Mary で始まり、pretty maids で終わるのは対照的であり、また完結感もある。庭づくりをすることによって contrary Mary は pretty maids の仲間入りをしたのかもしれないし、あるいはやはり依然 contrary のままかもしれない。それについては開かれたままだが、この唄の独特な庭づくりという基本は維持される。

Frances Hodgson Burnett の *The Secret Garden* (1911) の主人公 Mary は、冒頭から気難しい不細工な少女として登場し、愛らしいとか気立てが良いとか才気あふれる少年少女が主人公である物語とは一線を画している。実際、周りに愛されるどころか、煙たがられる存在の Mary が、この “Mary, Mary, quite contrary” の唄で他の子どもたちからかわれる場面がある。唄どおり、初めは「とてもつむじ曲がり」な少女なのだが、インドから引き取られたヨークシャーの伯父の館で、見捨てられていた庭を発見し、地元の少年 Dickon たちとともにそれを蘇らせることによって、不健康だった Mary と病弱な Colin の心身がはぐくまれていく様がこの物語では語られる。下敷きであったマザーグースの唄の通りに、当初は contrary だった Mary が庭づくりをすることによって、pretty maids の仲間入りをする物語と読むことができる。

以上のように、“Mary, Mary, quite contrary” の唄を 200 年以上にわたって検証したが、音とリズムの滑らかさを追求しながら、同時に、庭に鈴や貝殻など通常見慣れないものを並べ、聖母マリア、情婦メアリ、可愛い乙女、可愛い女中、寝取られ男、花などという具合に、聖と俗とが入り交じり、時には猥雑なものも含んで構築されていく空間というのは、いかにもマザーグース的な世界である。相反するものが共存しそれを許容する Mary の庭は、聖母マリアの閉ざされた庭とは対極の、開かれた空間である。聖なる Mary の庭を背景として、世俗の Mary の庭の風景は際立つ。18 世紀の初出文献から 20 世紀の Opie 版にいたる過程を追ってきたが、“Mary, Mary, quite contrary” というひとつの唄の成立とさまざまなバリエーションの展開のなかに、多様な、時には相反する要素を包括することが可能なマザーグースの特質がよく表われていることがわかる。

《注》

- (1) Opie の解説は常に博識で示唆に富むが、時には一部誤りも含まれている。Opie は、*Nancy Cock's Pretty Song Book* (c. 1780) は、Mrs. Mary, Quite contrary で始まり Sing cuckolds all on a row で終わると記す (355) が、これは正しくない。*Nancy Cock's Pretty Song Book* は、Mistress Mary で始まり、Sing Cock-a-doodle-do で終わる。冒頭と最終行が異なるのにも関わらず本書と *Nancy Cock's Song Book* とを混同している。研究者にとって、この 2 冊はなかなか複写でも目にし難いため、Opie の誤りをそのまま踏襲しがちだ。筆者 (夏目) 自身も 2003 年の拙著では Opie の説を踏襲し、混同していた。

Nancy Cock's Pretty Song Book の複写は持っていたが、*Nancy Cock's Song Book* の一部を Web 上で閲覧できるようになり（注 5 参照）、混同が判明した。安藤幸江も論文で、Opie 説をそのまま踏襲している（14）。

- (2) 安西信一は『イギリス風景式庭園の美学——〈開かれた庭〉のパラドックス』において、マリアの庭は、エデンの楽園を筆頭とする地上のあらゆる楽園に優越し、閉ざされることにより、神に近づくというパラドックスについて述べる（22-25）。
- (3) *Original Christmas Box* Vol. III (1798) 収録の “When Cockle Shells Turn Silver Bells” という歌の歌詞は次のようなものである。楽譜からの転載なので、行分けは筆者によるので小文字で行が始まっている。

When Cockle Shells turn Silver Bells,
and Muscles grow on ev'ry Tree,
when flowers blow, in frost and snow,
then my true love returns to me.
I learn'd my-self against an ake
and thought and thought it was a trusty Tree.
but first it bent, and then it brake,
but first it bent and then it brake.
and so did my true love to me. (下線筆者)

- (4) *Mistress* の下線部 s と、*so* の下線太字の s は、原文ではロングエス。
- (5) *Nancy Cock's Song Book* (1744) は現時点で 1 冊しか発見されていない貴重本だが、Cotsen Children's Library, Princeton University が一部挿絵つきで公開している。“Mrs. Mary” のページも公開されているので、本稿ではこれを参照した。Only%20Copy%20of%20“Nancy%20Cock's%20Song-Book”%20 (1744) %20Acquired%20%7C%20Cotsen%20Children's%20Library.html また、本図書館の図らいにより、PDF で閲覧することが可能になった。
- (6) No. XCII. の歌のタイトルとしては CUCKOLDS ALL A ROW だが、Pepys は *Cuckold's all arow* としており、表記が少しずつ異なる。
- (7) *Mistress*, *shells* などの下線太字の s は、原文ではロングエス。
- (8) *Songs for the Nursery* の 1805 年版では *shells* の s はロングエスだが、1808 年版では通常の *s* になっている。
- (本稿を書くにあたり、佐藤由美・藤野紀男作「WEB でマザーグース・ライブラリー」を一部参考にさせていただいたことに謝意を表したい。)

主要な引用作品

〈18 世紀集成本〉(年代順)

Tommy Thumb's Pretty Song Book Voll, II. Sold by Mary Cooper, 1744. Facsimile edition of the Cotsen Children's Library, Princeton University.

Nancy Cock's Song Book, 1744. Only%20Copy%20of%20“Nancy%20Cock's%20Song-Book”%20 (1744) %20Acquired%20%7C%20Cotsen%20Children's%20Library.html

Nancy Cock's Pretty Song Book, c.1780.

Gammer Gurton's Garland or, The Nursery Parnassus: A Choice Collection of Pretty Songs and Verses for the Amusement of All Little Children. Stockton: Christopher & Jennett, c.1784, c.1799; London: R. Triphook, 1810; Glasgow: Hugh Hopkins, 1866.

Tommy Thumb's Song Book. The First Worcester Edition, printed by Isaiah Thomas, 1788. Facsimile volume reproduced from the copy in the Library of the American Antiquarian Society at Worcester.

Christmas Box. Set to Music by M. Hook. London: A. Bland & Weller's Music Warehouse, 1796.

Infant Institutes, Part the First. Or, A Nurserical Essay on the Poetry, Lyric and Allegorical of the Earlier

- Ages. London: Printed for and sold by F. and C. Rivingston, 1797.
- Hook, James. *Hook's Original Christmas Box* Vol. III, London: A. Bland & Weller's Music Warehouse, 1798.
- 〈19 世紀以降集成本〉
- Aunt Louisa's Book of Nursery Rhymes*. London: Frederick Warne and Co., 1892.
- Bennett, Charles H. *Old Nurse's Book of Rhymes, Jingles and Ditties*. London: Griffith and Farran, 1858.
- Crane, Walter. *The Baby's Opera: A Book of Old Rhymes with New Dressed by the Music by the Earliest Masters*. London: George Routledge and Sons, 1877.
- Elliott, J. W. music, the Brothers Dalziel illus. *National Rhymes and Nursery Songs*. London: Novello and Company, 1895.
- Favourite Rhymes for the Nursery*. London: T. Nelson and Sons, 1887.
- Folkard, Charles illus. *The Land of Nursery Rhyme*. London: J. M. Dent & Sons, 1932, 1938.
- Greenaway, Kate. *Mother Goose or the Old Nursery Rhymes*. London: George Routledge and Sons, 1881.
- Greenaway, Kate. *The April Baby's Book of Tunes*. London: Macmillan, 1900; Facsimile edition by Holp Shuppan, 1996.
- Halliwell, James Orchard. *The Nursery Rhymes of England: Collected Principally from Oral Tradition*. London: The Percy Society, 1842; London: John Russell Smith, 1843; John Russell Smith, 1844; Frederick Warne, 1886; The Bodley Head, 1970.
- Kidson, Frank. *75 British Nursery Rhymes*. London: Augener Ltd, 1904.
- Lang, Andrew ed. *The Nursery Rhyme Book*. London: Frederick Warne and Co., 1898.
- Le Mair, Henriette Willebeek illus. *Our Old Nursery Rhymes*. London: Augener Ltd, 1911.
- Loomis, Chester illus. *Familiar Rhymes from Mother Goose*. London: Ernest Nister, 1888.
- Mother Goose Book of Nursery Rhymes and Songs*. London: J. M. Dent & Sons, 1910.
- Songs for the Nursery: Collected from the Works of the Most Renowned Poets, and Adapted to Favourite National Melodies*. London: Tabard and Co. 1805, 1808; London: Darton and Clark, n.d.
- Walker, William. *Walker's Nursery Rhymes*. Otley, UK: W. Walker, 1813.
- Mother Goose's Melodies, selected and Arranged by My Uncle Solomon*. Portland, ME: S. H. Colesworthy, 1847.
- Mother Goose; Containing All the Melodies the Old Lady Ever Wrote*. Philadelphia: G. S. Appleton, 1851.
- Mother Goose's Melodies: The Only Pure Edition*. Boston: Munroe and Francis, 1833.
- Mother Goose's Nursery Rhymes: A Collection of Alphabets, Rhymes, Tales and Jingles*. London: George Routledge and Sons, 1877.
- Mother Goose's Nursery Rhymes, Tales and Jingles: Complete Edition, with Notes and Critical Illustrative Remarks*. New York: Hurst and Company, 1902.
- Rackham, Arthur illus. *Mother Goose: The Old Nursery Rhymes*. London: William Heinemann, 1913.
- Smith, Jessie Willcox. *Mother Goose*. 1895; *The Little Mother Goose*. New York: Dodo, Mead & Company, 1914.
- Summerly, Felix. *Traditional Nursery Songs of England*. London: Joseph Cundall, 1843.
- Wheeler, William ed. *Mother Goose's Melodies or Songs for the Nursery*. Boston and New York: Houghton Mifflin, 1878.
- Wright, Blanch Fisher illus. *The Real Mother Goose*. London: George G. Harrap & Co., 1916.

参考文献

- 安西信一『イギリス風景式庭園の美学——〈開かれた庭〉のパラドックス』東京大学出版会, 2000.
- 安藤幸江「Tommy Thumb's Song Book の “Mistress Mary” の “Sing Cuckolds all a row”」『マザーグース研究 IX』マザーグース学会, 2010.
- 夏目康子『不思議の国のマザーグース』柏書房, 2003.
- 夏目康子・藤野紀男『マザーグースイラストレーション事典』柊風舎, 2008.

- Baring-Gould, William S. & Ceil. *The Annotated Mother Goose: Nursery Rhymes Old and New, Arranged and Explained*. New York: Bramhall House, 1962.
- Chappell, William. *A Collection of National English Airs: Ancient Song, Ballad, & Dance Tunes*. 1840.
[https://imslp.org/wiki/A_Collection_of_National_English_Airs_\(Chappell%2C_William\)](https://imslp.org/wiki/A_Collection_of_National_English_Airs_(Chappell%2C_William)) <2022/8/27>
- Nancy Cock's Song Book*, 1744. Only%20Copy%20of%20"Nancy%20Cock's%20Song-Book"%20 (1744) %20
 Acquired%20%7C%20Cotsen%20Children's%20Library.html <2022/8/27>
- Opie, Iona & Peter. *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes*. The Clarendon Press, 1951; Oxford University Press, 1997.
- Williams, Gordon. *A Dictionary of Sexual Language and Imagery in Shakespearean and Stuart Literature: Three Volume Set Volume I A-F Volume II G-P Volume III Q-Z*. London: The Athlone Press, 1994.

図版

1. *Tommy Thumb's Pretty Song Book* Voll, II. Sold by Mary Cooper, 1744.
2. *Nancy Cock's Song Book*, 1744.
3. *Nancy Cock's Pretty Song Book*, c.1780.
4. *Tommy Thumb's Song Book*. The First Worcester Edition, printed by Isaiah Thomas, 1788.
5. *Christmas Box. Set to Music by M. Hook*. London: A. Bland & Weller's Music Warehouse, 1796.
6. Charles H. Bennett illus. *Old Nurse's Book of Rhymes, Jingles and Ditties*. London: Griffith and Farran, 1858.
7. Kate Greenaway illus. *The April Baby's Book of Tunes*. London: Macmillan, 1900.
8. Henriette Willebeek Le Mair illus. *Our Old Nursery Rhymes*. London: Augener Ltd., 1911.